

HCL Common Local License Server V2.0 導入ガイド (OneTest 用)

Version 2.0

改訂履歴

改訂番号	改訂日	主要な変更内容	更新者
1.0	2021/11/24	初版	HCL 後藤
1.1	2022/02/18	システム要件に Windows Server 2019 を追記	HCL 後藤
1.2	2012/03/11	環境変数 JAVA_HOME の設定に注を付記	HCL 後藤
2.0	2022/07/07	ライセンスサーバーV2.0 に同梱の導入方法に変更	HCL 後藤

目次

1. はじめに	1
1.1. 当ドキュメントについて	1
1.2. 対象範囲	1
1.3. 目的	1
1.4. 対象者	1
1.5. 前提事項	1
1.6. 参考資料	1
2. 環境の準備	2
2.1. システム要件	2
2.2. Java の導入	2
3. HCL Common Local License Server V2.0 の導入	9
3.1. パッケージのダウンロード	9
3.2. ダウンロードパッケージの展開	11
3.3. 導入の準備	13
3.4. HCL Common Local License Server V2.0 の導入	17
4. HCL Common Local License Server V2.0 の設定	19
4.1. 設定準備	19
4.2. ポータルサイトでの作業	20
4.3. ライセンスキーの適用	24

1. はじめに

1.1. 当ドキュメントについて

本書は、HCL Common Local License Server V2.0 の導入 (OneTest 用) について説明するものである。

1.2. 対象範囲

HCL Common Local License Serve V2.0 (OneTest 用)を対象範囲とする。

※あくまでも、OneTest 用の導入ガイドである。他の製品については、個々のガイドを参照すること。

1.3. 目的

HCL Common Local License Server V2.0 の導入 (OneTest 用) を明確にすることを目的とする。

1.4. 対象者

HCL Common Local License Server V2.0 の導入 (OneTest 用) 担当者。

1.5. 前提事項

当ドキュメントの設定にあたっての前提事項を以下に示す。

- 環境内に Windows 10 が導入されていること。
 - 2021 年 3 月末時点での情報をもとに記述している。
-

1.6. 参考資料

< Installing HCL Common License Server (AppScan 用) >

https://help.hcltechsw.com/appscan/Source/9.0.3/topics/install_common_comp_lic_server.html

2. 環境の準備

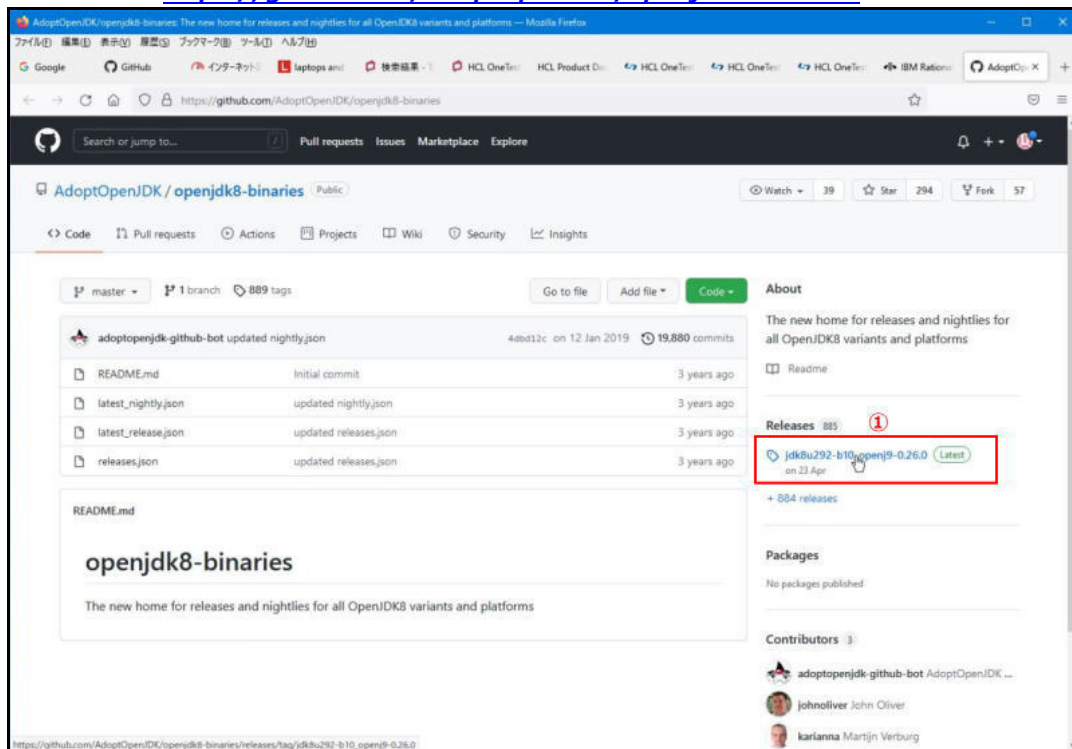
2.1. システム要件

1. サポート OS: Windows 8.1, Windows 10, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016, Windows Server 2019 である。
2. 物理環境、仮想環境 両方へのインストールが可能である。
3. **64bit** 環境のみをサポートする。
4. **Java 8** が導入されていて、**JAVA_HOME 環境変数**を設定されていること (OpenJDK 可)。
5. 有効な **SSL 証明書** (http 接続はサポートされていません)が必要、自己証明でも可である。

2.2. Java の導入

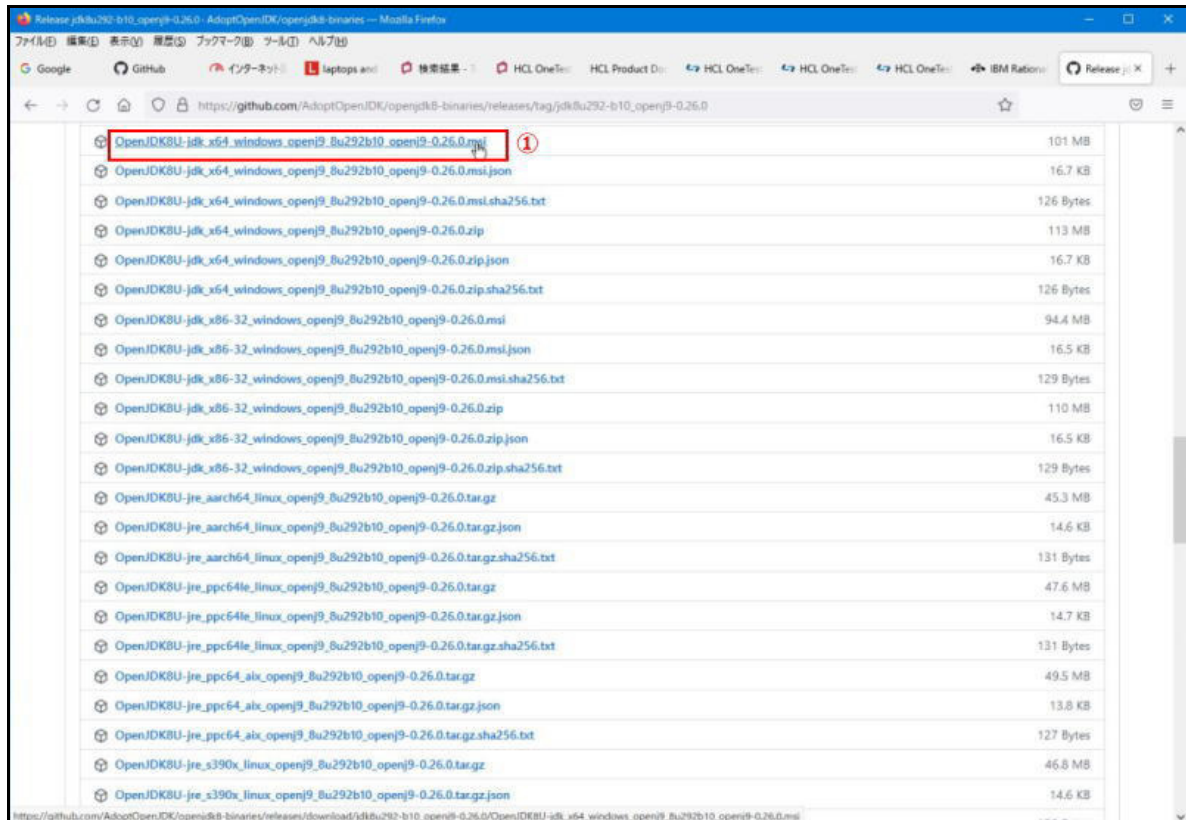
1. GitHub の OpenJDK のサイト

ブラウザから、「<https://github.com/AdoptOpenJDK/openjdk8-binaries>」のサイトをロードする。



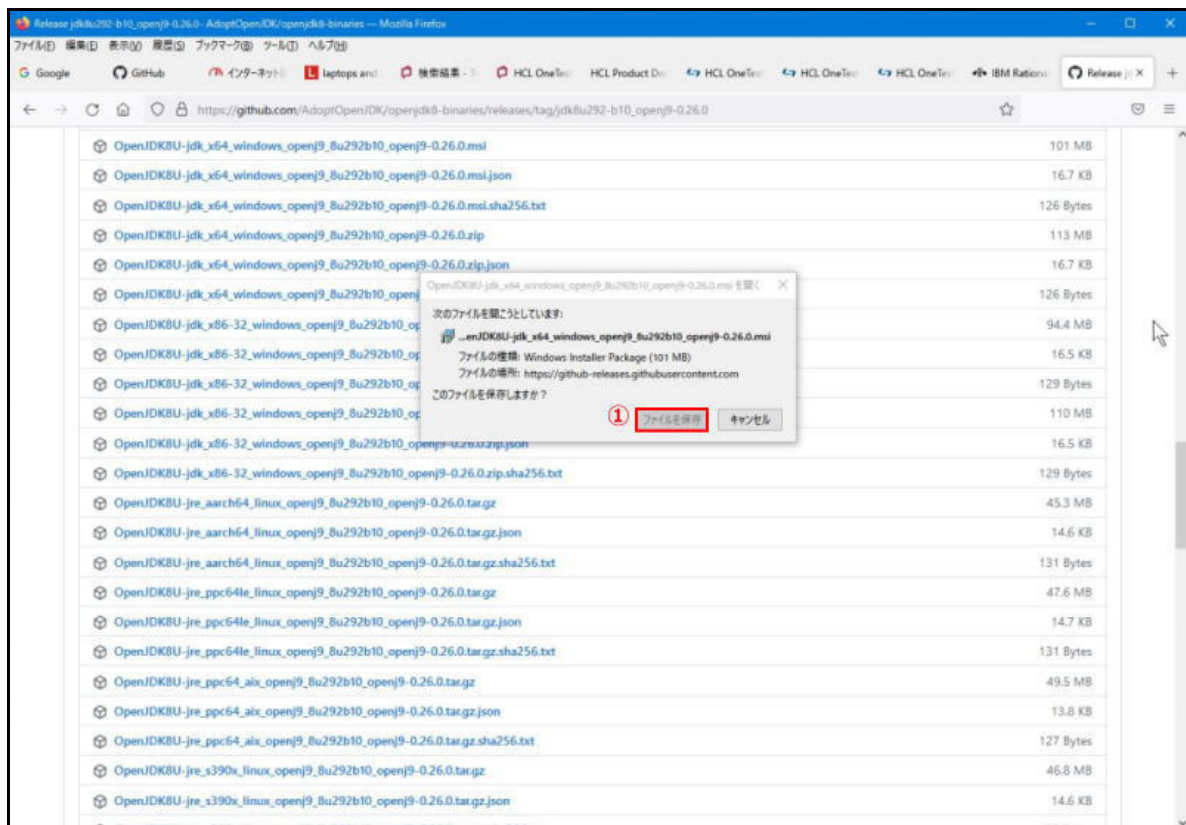
- ① **最新のリリース** (jdk8u292-b10)をクリックする。

2. GitHub の OpenJDK の最新リリースサイト



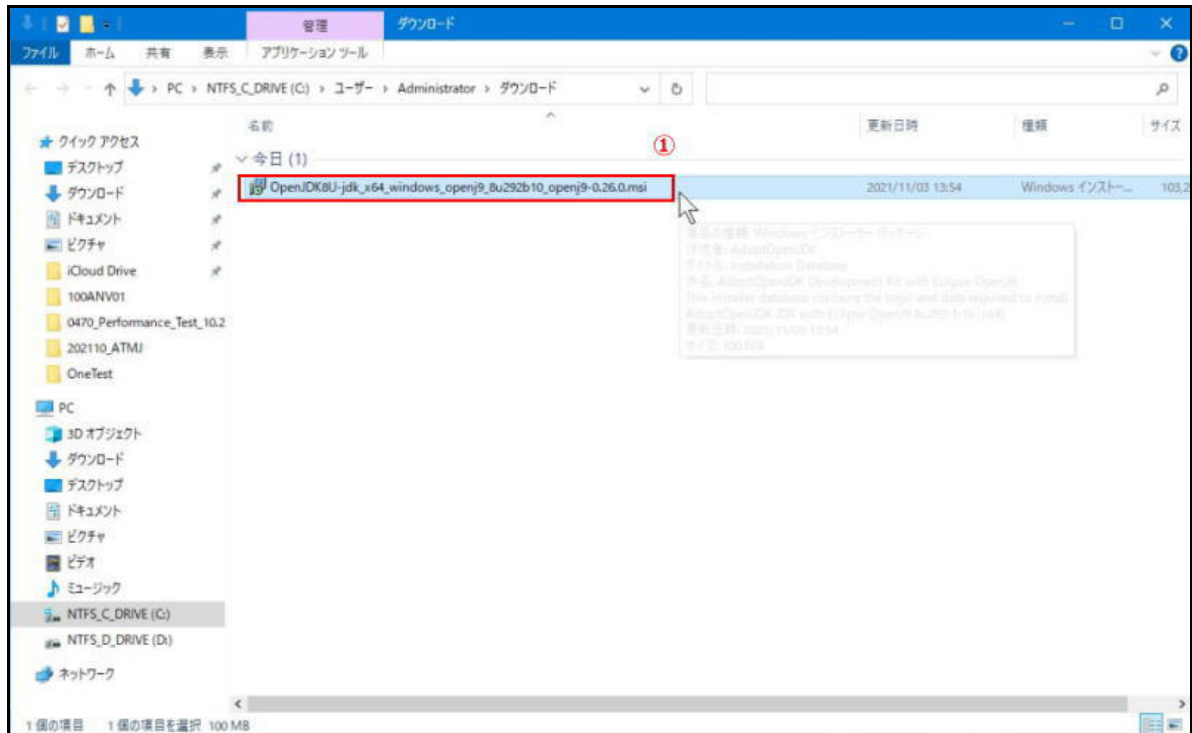
① Windows 64 ビットのインストールパッケージをクリックする。

3. インストールパッケージのダウンロード



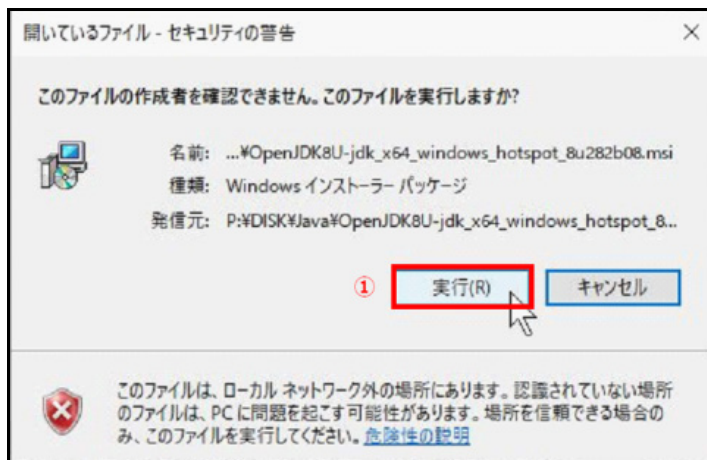
① ダイアログが現れるので、【ファイルを保存】のボタンをクリックする。

4. パッケージのインストール



①ダウンロードしたパッケージの保管先で、**パッケージファイルをダブルクリック**する。

5. セキュリティの警告



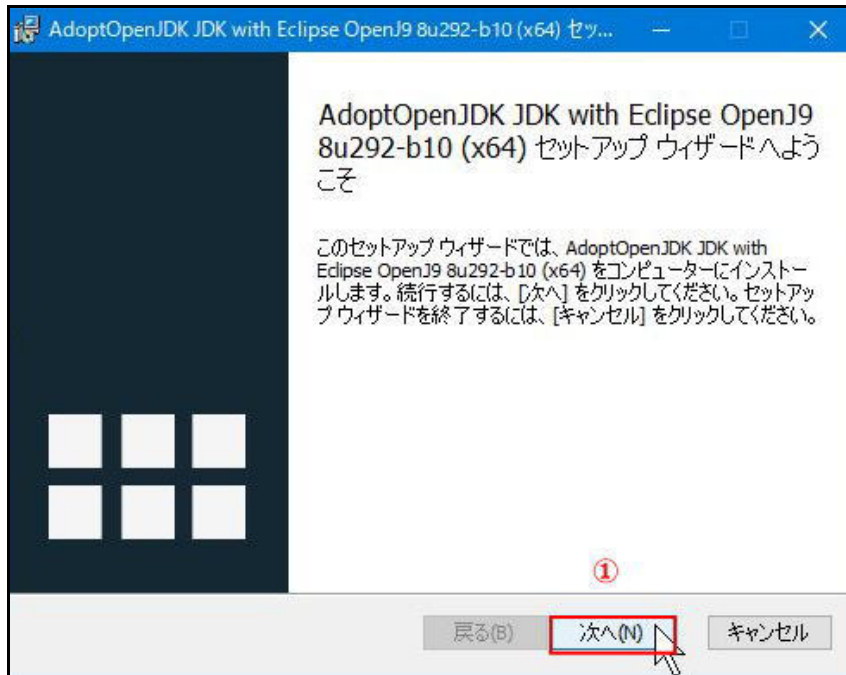
①【**実行**】ボタンをクリックする。

6. インストールの準備



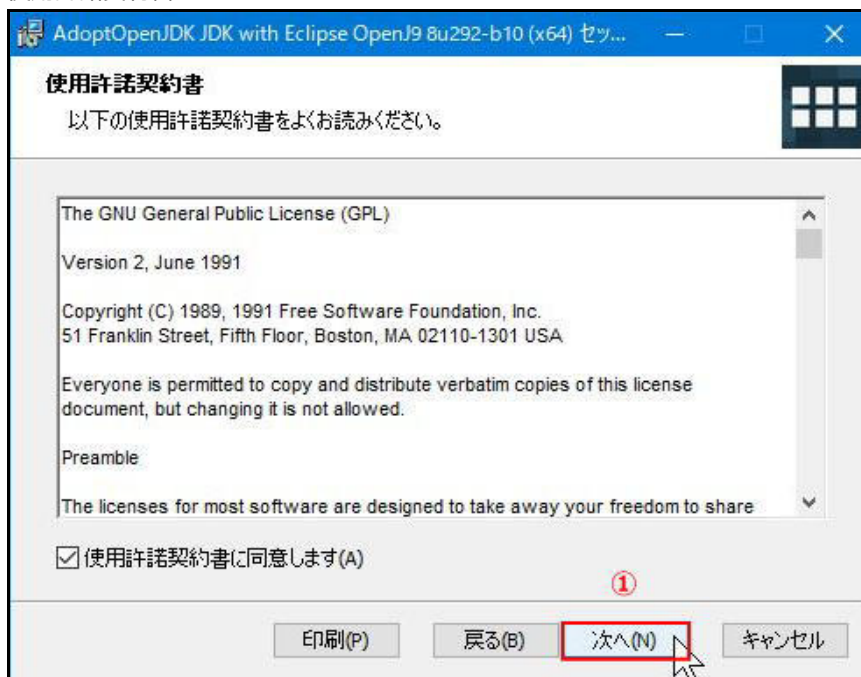
①特に何もしない、ダイアログが切り替わるのを待つ。

7. OpenJDK セットアップ - ウィザード開始



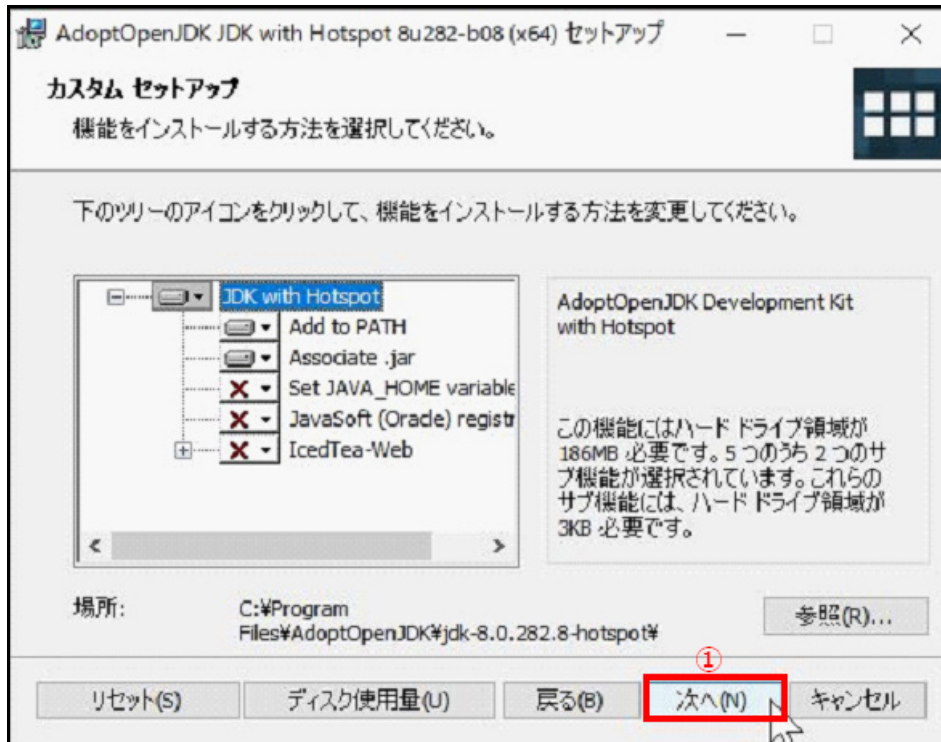
① **【次へ】** ボタンをクリックする。

8. 使用許諾契約書



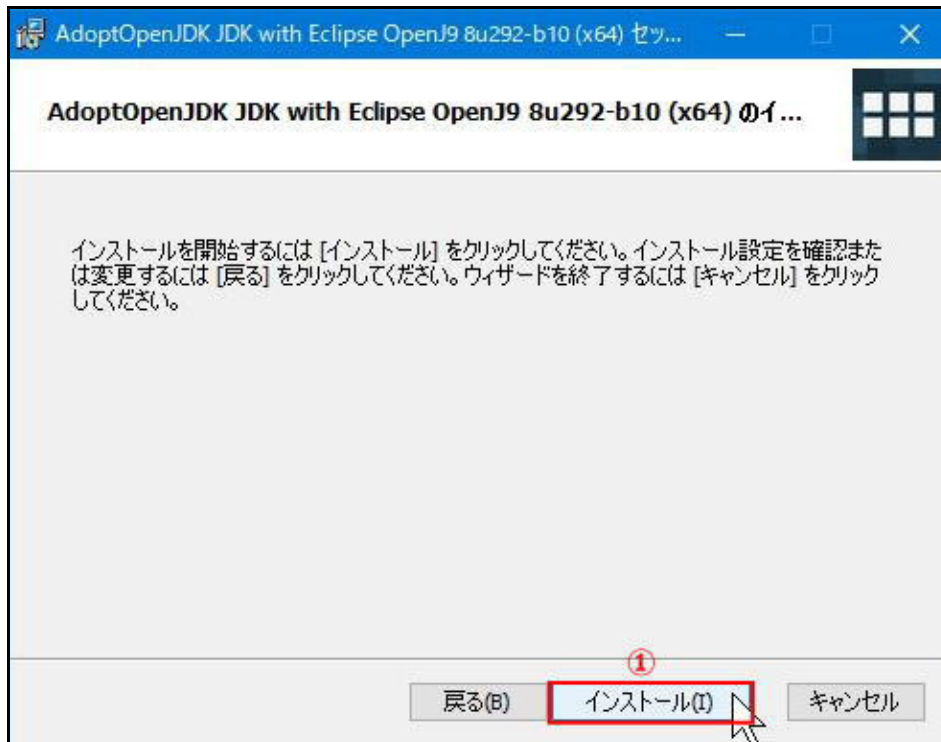
① **【次へ】** ボタンをクリックする。

9. カスタムセットアップ



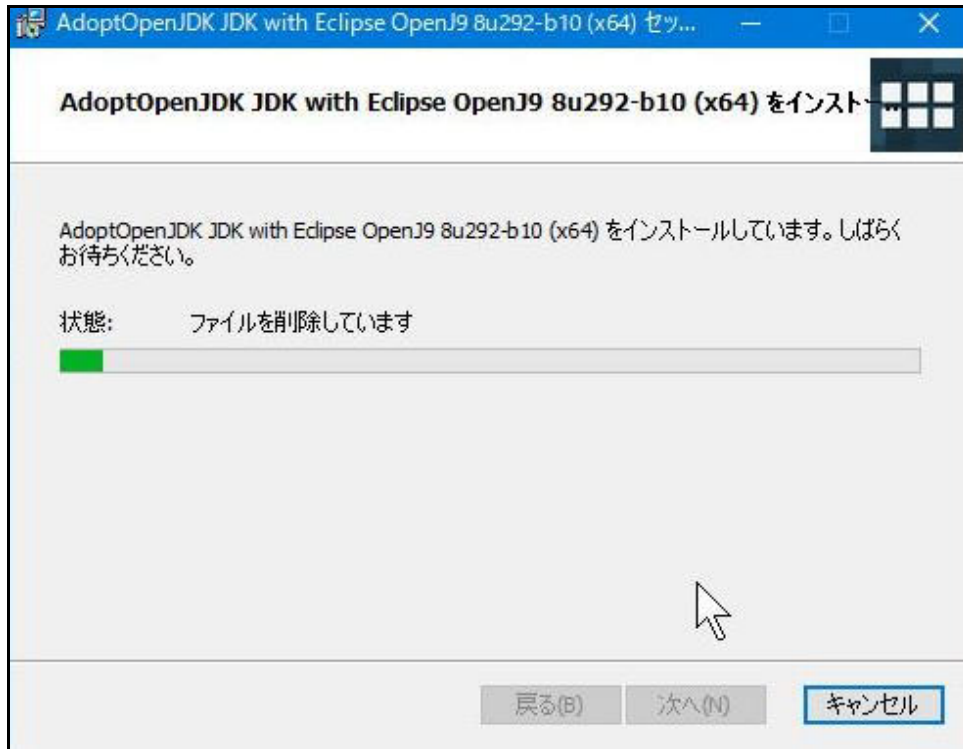
①このままで【次へ】ボタンをクリックする。

10. インストール開始



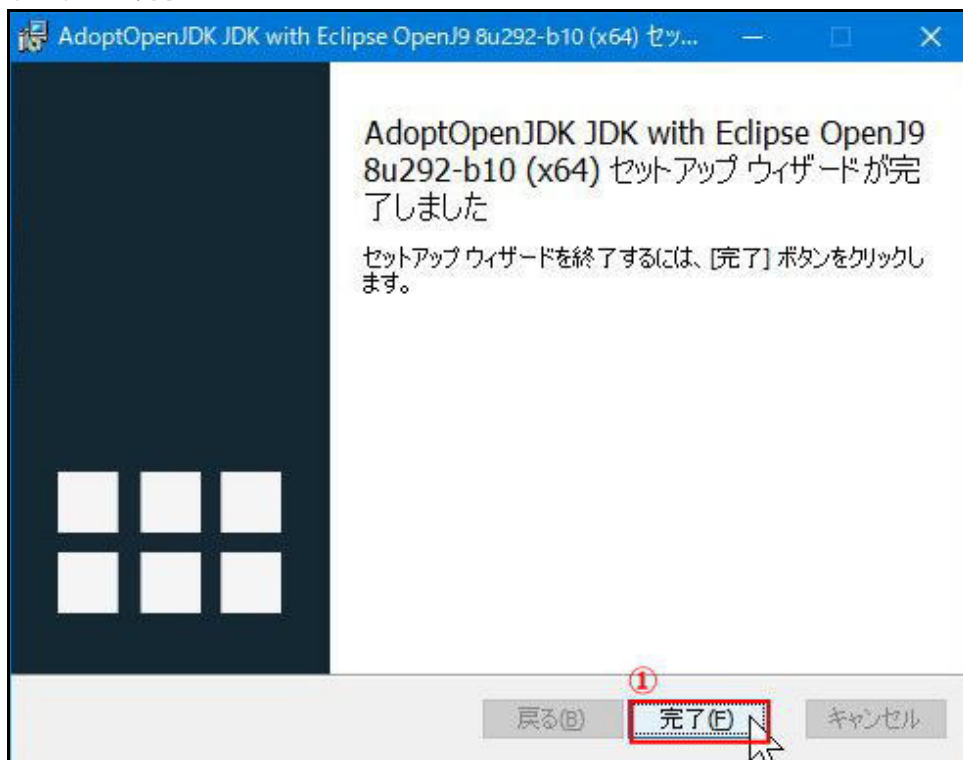
①【インストール】ボタンをクリックする。

11. インストールの進行



①インストールが完了するのを待つ。

12. インストールの完了



① **【完了】** ボタンをクリックする。

13. インストールの確認

管理者でコマンドプロンプトを開く。

```

管理者: コマンドプロンプト

[ C:\> ] java -version ①
openjdk version "1.8.0_292"
OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_292-b10)
Eclipse OpenJ9 VM (build openj9-0.26.0, JRE 1.8.0 Windows 10 amd64-64-Bit Compressed References 20210421_1045 (JIT enabled, AOT enabled))
OpenJ9 - b4cc246d9
OMR - 162e8f729
JCL - 2a5e28814 based on jdk8u292-b10)

[ C:\> ] path ②
PATH=C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9\bin;C:\ProgramData\Oracle\Java\javapath;C:\WINDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Winb
em;C:\WINDOWS\System32\WindowsPowerShell\v1.0;C:\WINDOWS\CCM;C:\WINDOWS\System32\OpenSSH;C:\Program Files\Intel\WiFi\bin;C:\Program Files\Common Fi
les\Intel\WirelessCommon;C:\Program Files (x86)\Windows Kits\8.1\Windows Performance Toolkit;C:\Program Files (x86)\Microsoft SDKs\TypeScript\1.0;C
:\Program Files\Java\jre1.8.0_231\bin;d:\mick5\win32bin;C:\Program Files\Git\cmd;C:\Program Files\Docker\Docker\resources\bin;C:\ProgramData\DockerDe
sktop\version-bin;C:\Program Files (x86)\HCL\SafeLinux Client;C:\Users\Administrator\AppData\Local\Microsoft\WindowsApps;

[ C:\> ] setx JAVA_HOME "C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9" ③
成功: 指定した値は保存されました。

[ C:\> ]

```

① **java -version** と入力し Java のバージョンを確認する。出力結果が 8.0 以上であることを確認する。

② **path** と入力し、OpenJDK の導入先のパスを確認する。この例では、「C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9\bin」である。

③ **setx JAVA_HOME "C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9"** と入力する。これで、環境変数 **JAVA_HOME** に先ほどのパスが設定される。

※jdk-8.0.292.10 は、あくまでもこのガイドを作成した時のバージョンである。実際は、導入したバージョンに合わせる。

※ここで一旦コマンドプロンプトを閉じて、再度開く。

```

管理者: コマンドプロンプト

Microsoft Windows [Version 10.0.19043.1320]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

[ C:\> ] set java ④
JAVA_HOME=C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9

[ C:\> ] _

```

④ **set java** と入力する。環境変数 **JAVA_HOME** が設定されていることを確認する。

3. HCL Common Local License Server V2.0 の導入

3.1. パッケージのダウンロード

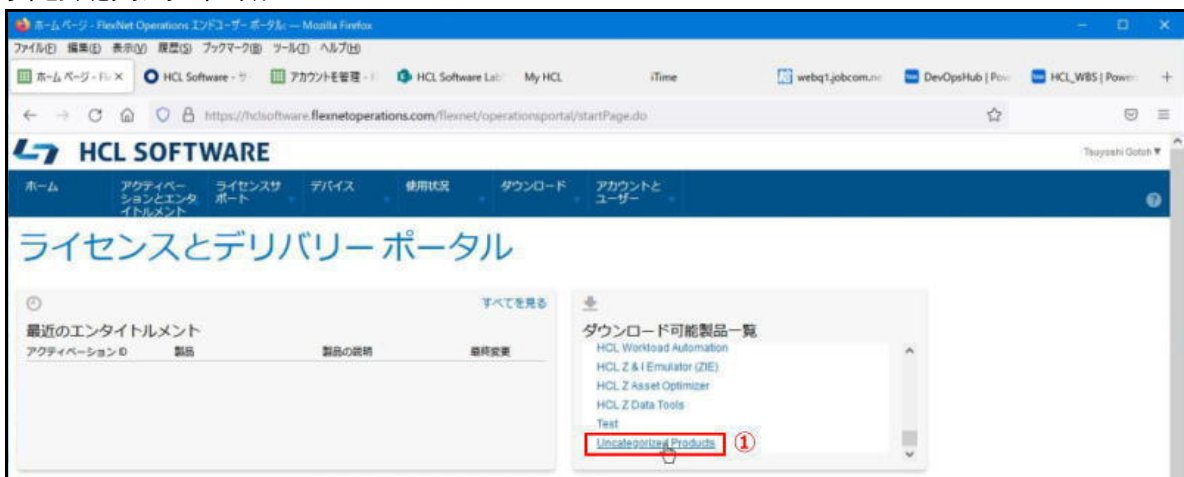
1. ライセンスポータルサイトへのログイン (以下の URL にアクセス)

<https://hclsoftware.flexnetoperations.com/flexnet/operationsportal/logon.do>



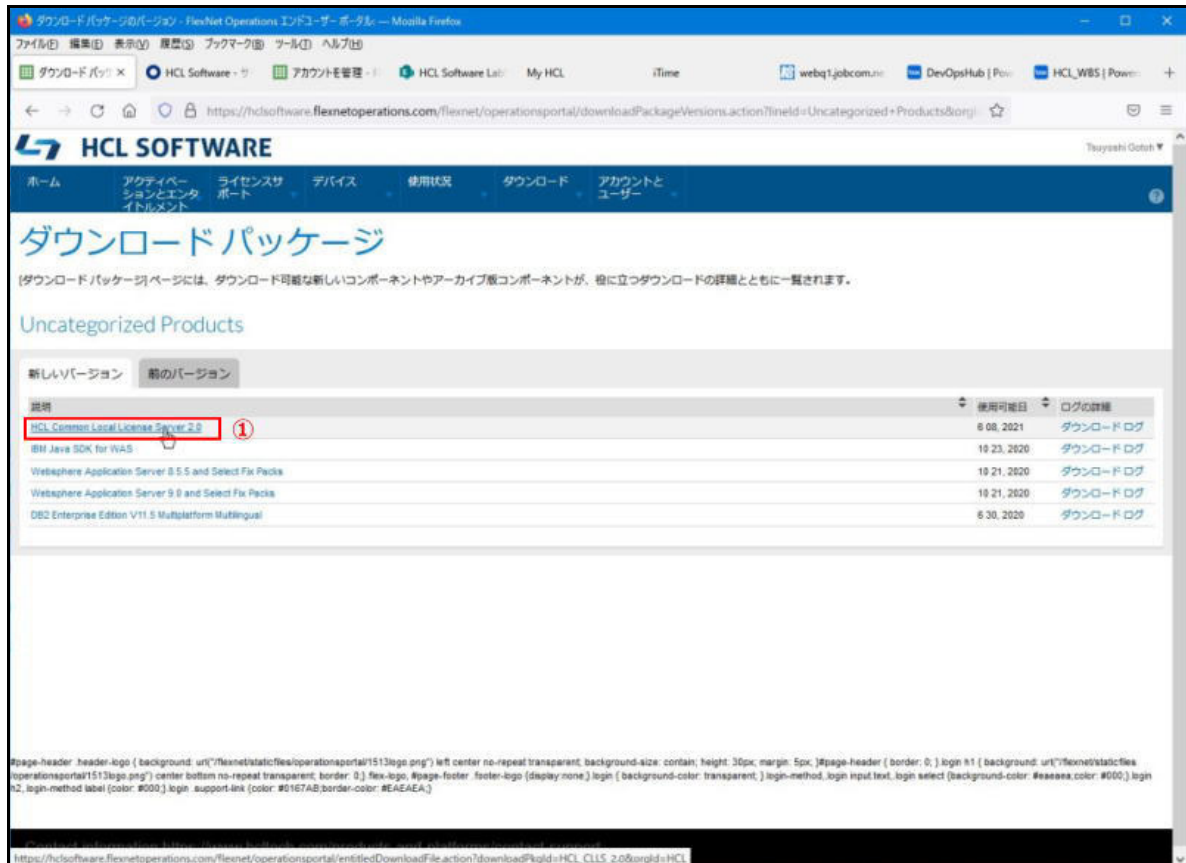
- ①アカウント登録を実施したメールアドレスとパスワードを使用してログインする。

2. ライセンスとデリバリーポータル



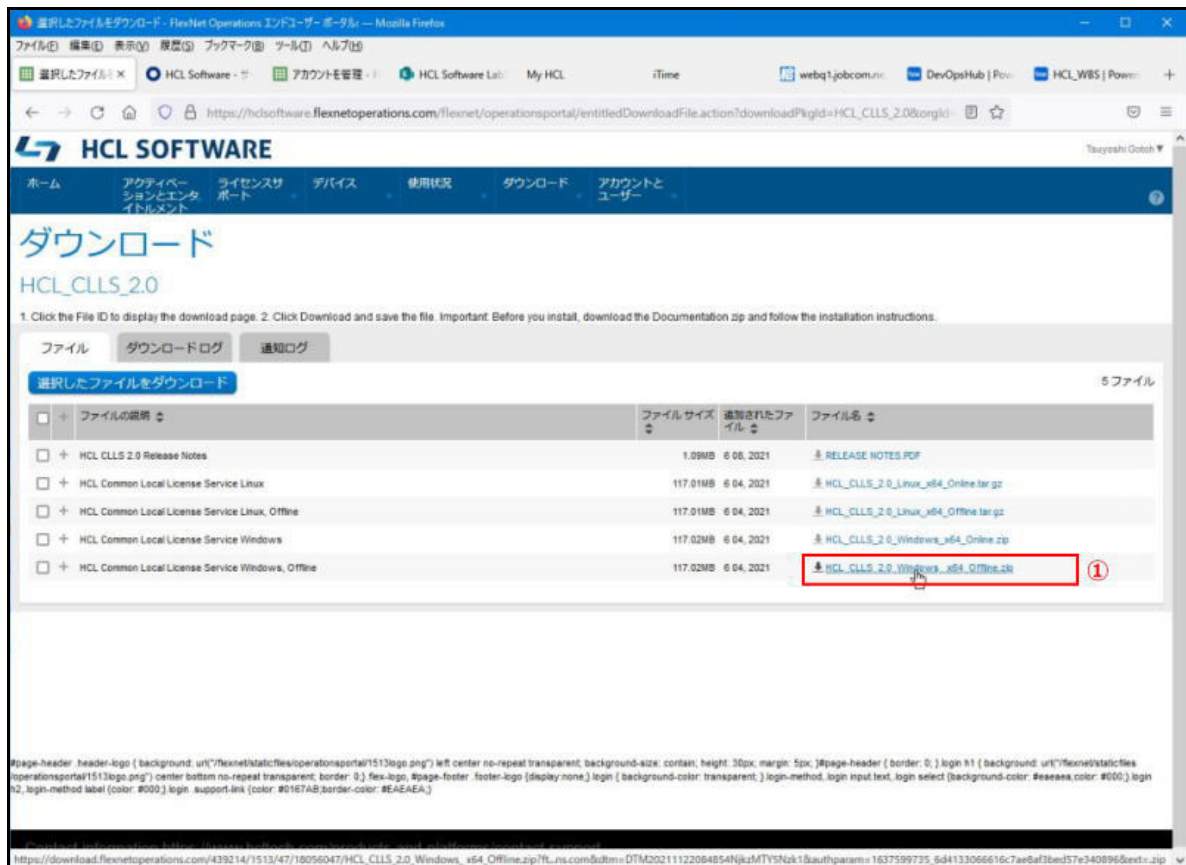
- ①ホームメニューから「ダウンロード可能製品一覧」⇒「Uncategorized Products」をクリックする。

3. ダウンロードパッケージ



①「HCL Common Local License Server 2.0」をクリックする。

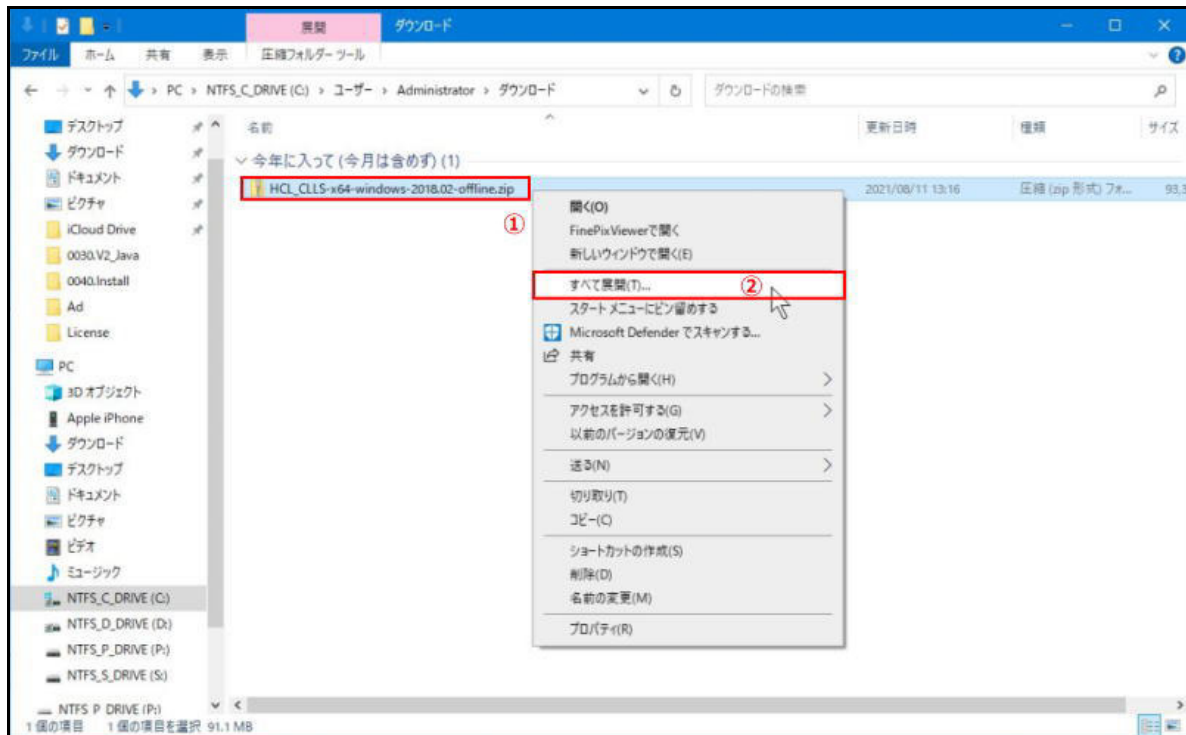
4. ダウンロード



①「HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline.zip」をクリックしてダウンロードする。

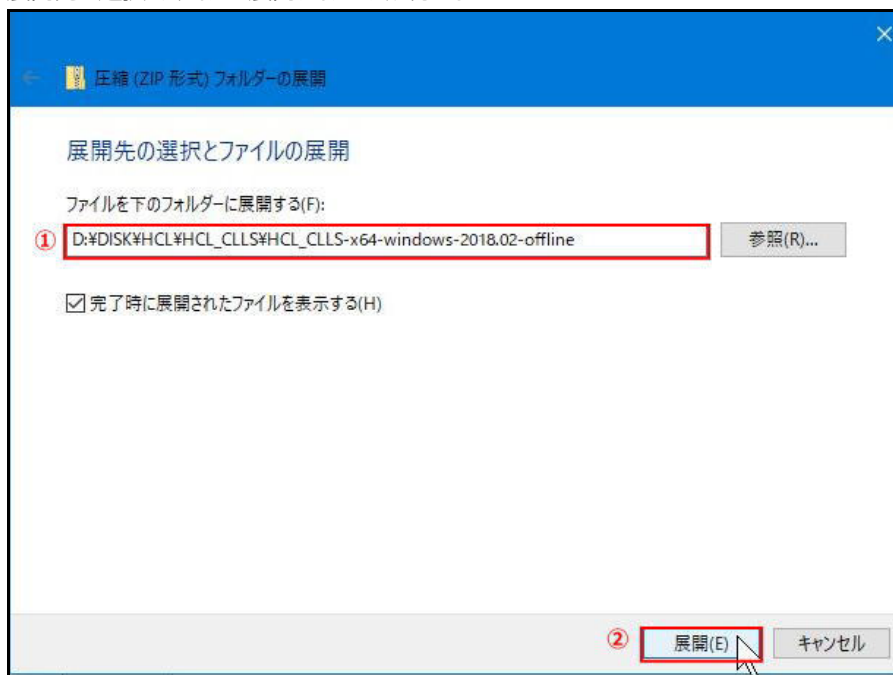
3.2. ダウンロードパッケージの展開

1. 保管先のフォルダーを開く。



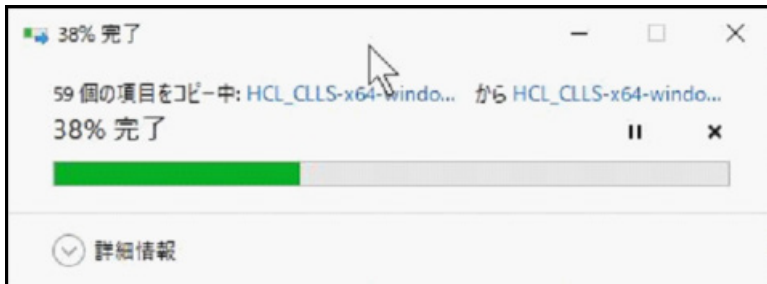
- ①ダウンロードしたパッケージのファイルを選択する。
- ②マウスで右クリックし、メニューから、【すべて展開】をクリックする。

2. 展開先の選択とファイルの展開ダイアログが現れる。



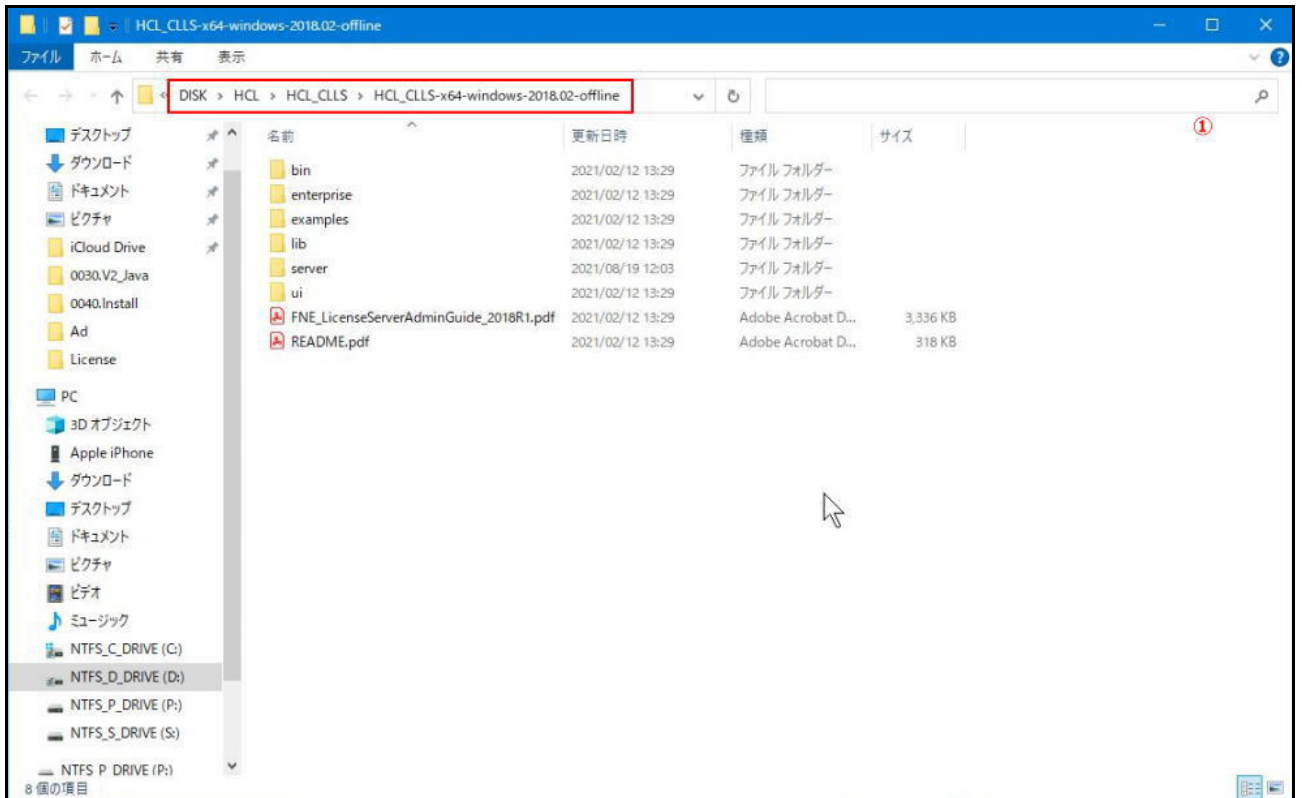
- ①展開先のフォルダーに、「D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline」を指定する(例)。
- ②【展開】ボタンをクリックする。

3. ファイル展開の進行中ダイアログが現れる。



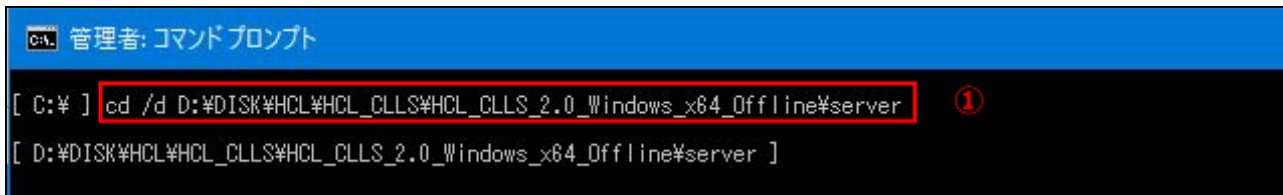
- ①ファイルの展開が完了するのを待つ。

4. 展開が完了すると展開先のフォルダーが表示される。



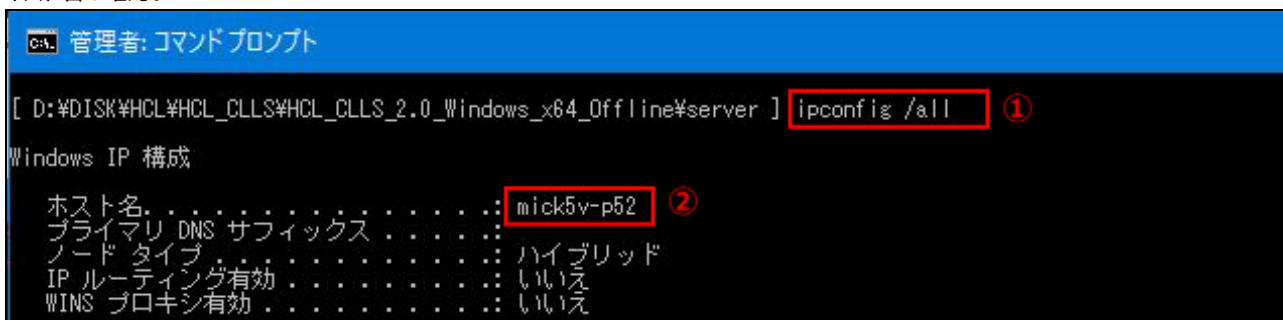
3.3. 導入の準備

1. 管理者権限でコマンドプロンプトを開く。



① `cd /d D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\server` と入力し、解凍先の **server** サブフォルダーに移動する。

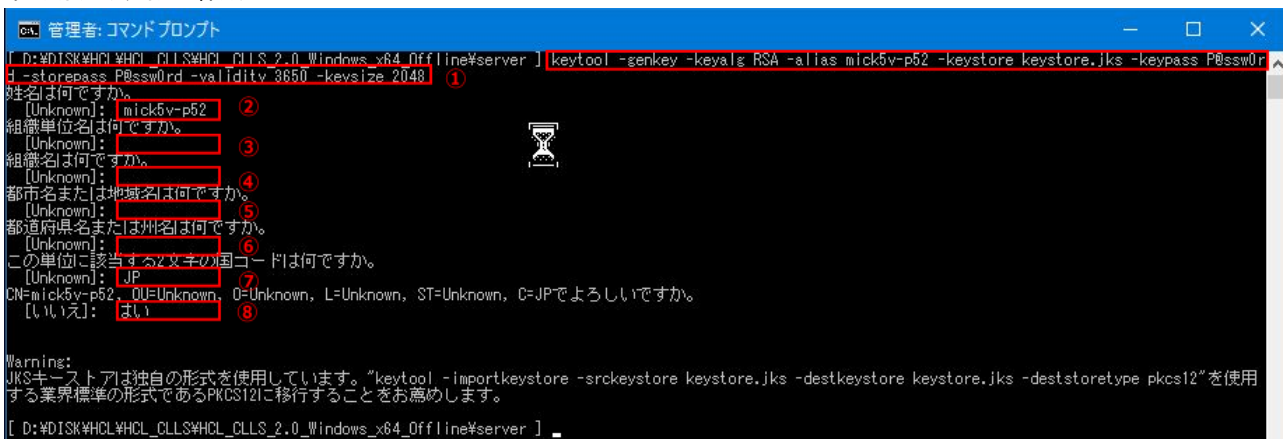
2. ホスト名の確認。



① `ipconfig /all` と入力する。

② **ホスト名**を確認する。この例では、**mick5v-p52** である。 ※ホスト名だけに着目する。ドメインは不要である。

3. キーストア・ファイルの作成



① `keytool -genkey -keyalg RSA -alias mick5v-p52 -keystore keystore.jks -keypass P@ssw0rd -storepass P@ssw0rd -validity 3650 -keysize 2048` を入力する。

- a. **mick5v-p52** は、ホスト名である。 ※2.で取得した固有の値を指定すること。
- b. **P@ssw0rd** は、それぞれパスワードである。
- c. **keystore.jks** は、キーストアのファイル名である。

② 姓に 2.で取得した**ホスト名**を指定する。 ※これを間違えるとライセンスサーバーが正しく機能しないので注意する。

③～⑥組織単位名、組織名、都市名、都道府県名には特に何も指定しない。

⑦国コードに **JP** を指定する。

⑧最後に、「はい」と入力する。

キーストアのファイルが作成されていることを確認する。

4. **flexnetls.settings** を編集する。

コマンドプロンプトから、notepad で **flexnetls.settings** を開く。



```
flexnetls.settings - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

#Jre home directory
JRE_HOME="%JRE_HOME%"

#
#Optional
#

#Server port, default to 7070 if not specified.
#PORT=

#Active hostid in <value>/<type> format, such as C001D9999/Ethernet. If not set will use default hostid.
#ACTIVE_HOSTID=

#Extended hostid suffix.
#EXTENDED_SUFFIX=

#Server alias.
#SERVER_ALIAS=

#Optional extra system properties (e.g. proxy settings).
#EXTRA_SYSPROPERTIES=

#Note
#Values that have spaces need to be in quotes
#

#2021-02-13
#Add
#
HTTPS_SERVER_CONFIG=https_config.txt
```

①最終行に、「**HTTPS_SERVER_CONFIG=https_config.txt**」を追加する。

5. **https_config.txt** を新規に作成する。

コマンドプロンプトから、notepad で **https_config.txt** を開く。



```
https_config.txt - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

keystore.path=keystore.jks
keystore.password=P@ssw0rd
https.port=443
```

①以下の3行を追記する。

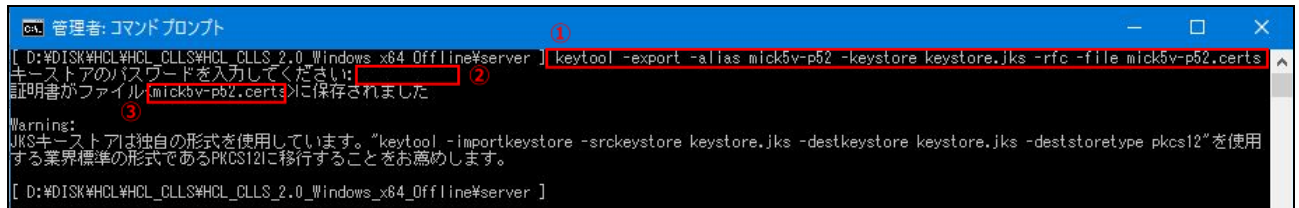
keystore.path=keystore.jks

keystore.password=P@ssw0rd

https.port=443

※**P@ssw0rd** は、keytool で指定した値と同じにすること。

6. キーストア・ファイルを自己証明書にエクスポートする。



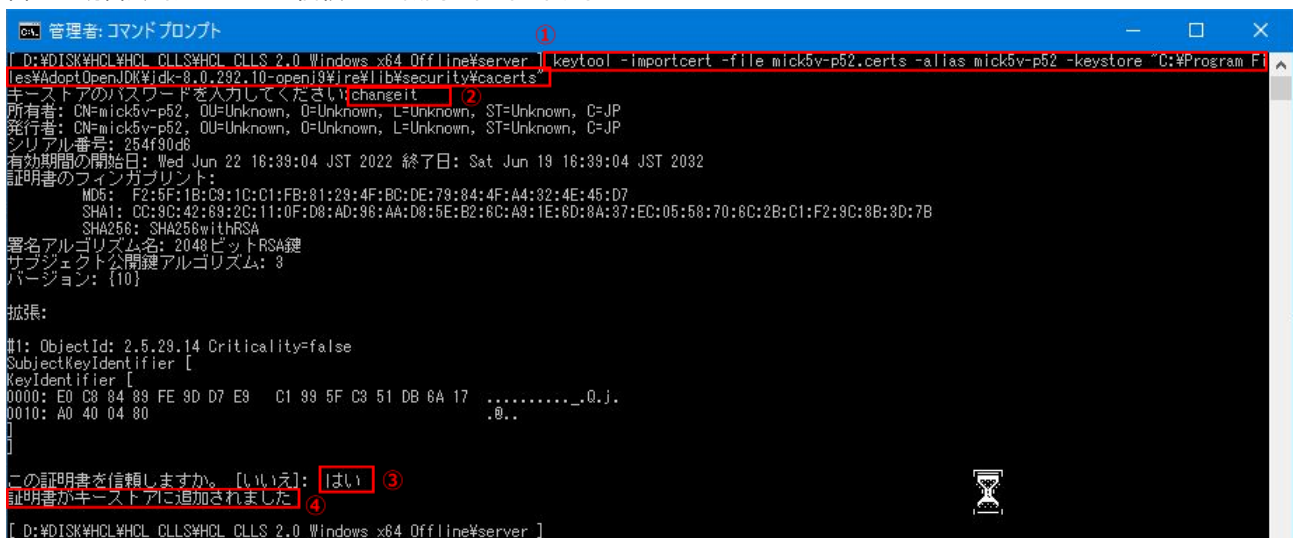
① **keytool -export -alias mick5v-p52 -keystore keystore.jks -rfc -file mick5v-p52.certs** を入力する。

- a. **mick5v-p52** は、ホスト名である。 ※2.で取得した固有の値を指定すること。
- b. **keystore.jks** は、キーストアのファイル名である。
- c. **mick5v-p52.certs** は、エクスポート先の自己証明書のファイル名である。

② キーストアのパスワードには、**P@ssw0rd** を指定する。 ※3.で指定した値を指定すること。

③ 自己証明書 **mick5v-p52.certs** が作成されたことを確認する。

7. 自己証明書ファイルを Java の信頼された機関にインポートする。



① **keytool -importcert -file mick5v-p52.certs -alias mick5v-p52 -keystore "C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9\jre\lib\security\cacerts"** を入力する。

- a. **mick5v-p52.certs** は、自己証明書のファイル名である。
- b. **mick5v-p52** は、ホスト名である。 ※2.で取得した固有の値を指定すること。
- c. **C:\Program Files\AdoptOpenJDK\jdk-8.0.292.10-openj9** は、java の導入先である。

② キーストアのパスワードには、一意で **changeit** を指定する。

※java の省略時パスワードである。これ以外は無効。入力値は画面には表示されない。

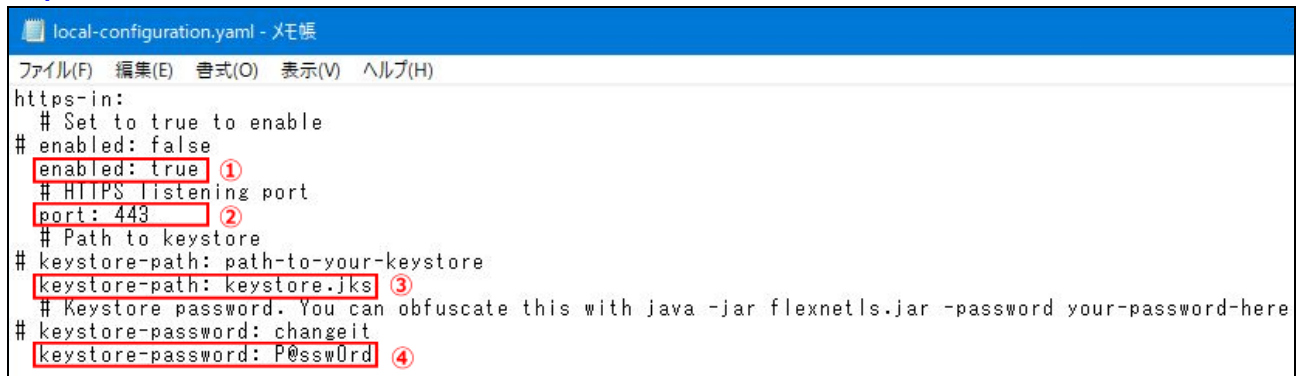
③ 最後に、「はい」と入力する。

④ 「証明書がキーストアに追加されました」と言うメッセージを確認する。 ※正しく追加しないと、以降の作業ができない。

8. **local-configuration.yaml** ファイルを編集する。

コマンドプロンプトから、notepad で **local-configuration.yaml** を開く。

https-in セクションで、



```
local-configuration.yaml - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
https-in:
# Set to true to enable
# enabled: false
enabled: true ①
# HTTPS listening port
port: 443 ②
# Path to keystore
# keystore-path: path-to-your-keystore
keystore-path: keystore.jks ③
# Keystore password. You can obfuscate this with java -jar flexnetls.jar -password your-password-here
# keystore-password: changeit
keystore-password: P@ssw0rd ④
```

① **enabled** を **true** に変更する。

② **port** を **443** に変更する。

③ **keystore-path** に **keystore.jks** を指定する。

④ **keystore-password** に **P@ssw0rd** を指定する。

※5.の **https_config.txt** と同じ値を指定すること。

※3.の **keytool** コマンドと同じ値を指定すること。

※3.の **keytool** コマンドと同じ値を指定すること。

3.4. HCL Common Local License Server V2.0 の導入

1. インストール

管理者権限でコマンドプロンプトを開き、パッケージの解凍先に移動する。



```
[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\server ] flexnetls.bat -install ①
Installing service FNLS-HCL

[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\server ] flexnetls.bat -start ②
Service FNLS-HCL successfully started

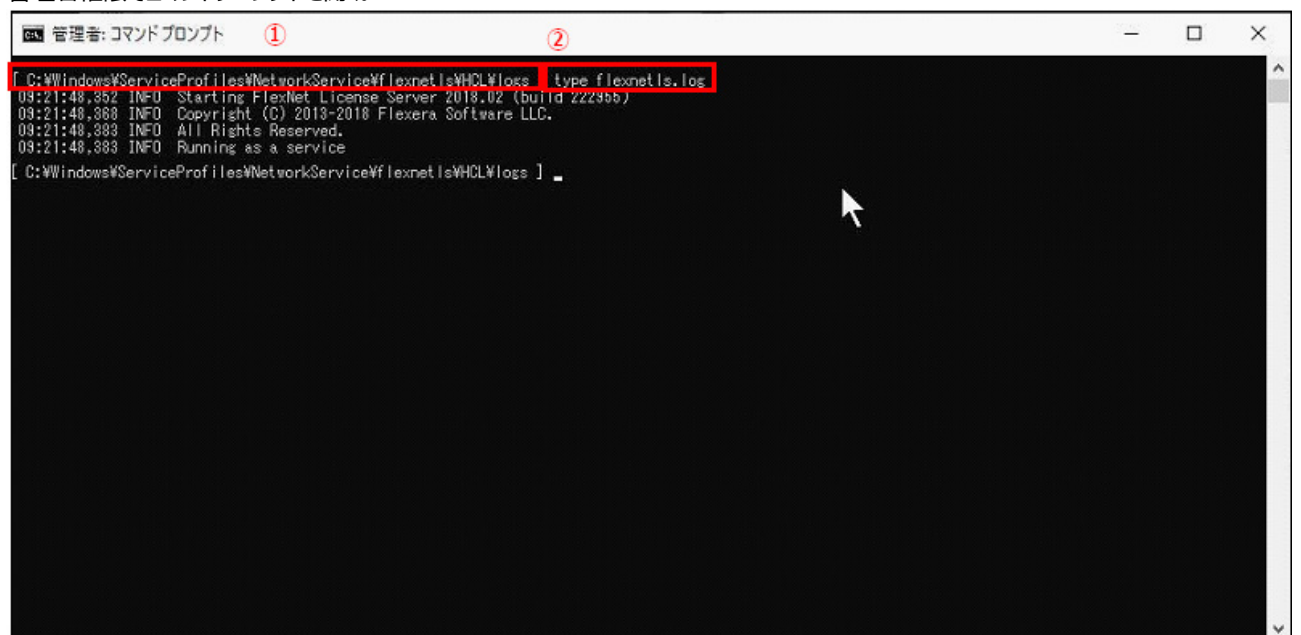
[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\server ] flexnetls.bat -status ③
Service running

[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\server ]
```

- ① **flexnetls.bat -install** と入力する。
ライセンスサーバーがサービス (FNLS-HCL) として導入される。
- ② **flexnetls.bat -start** と入力する。
サービス (FNLS-HCL) が開始される。
- ③ **flexnetls.bat -status** と入力する。
サービス (FNLS-HCL) のステータスが表示される。

2. ログの確認

管理者権限でコマンドプロンプトを開く。

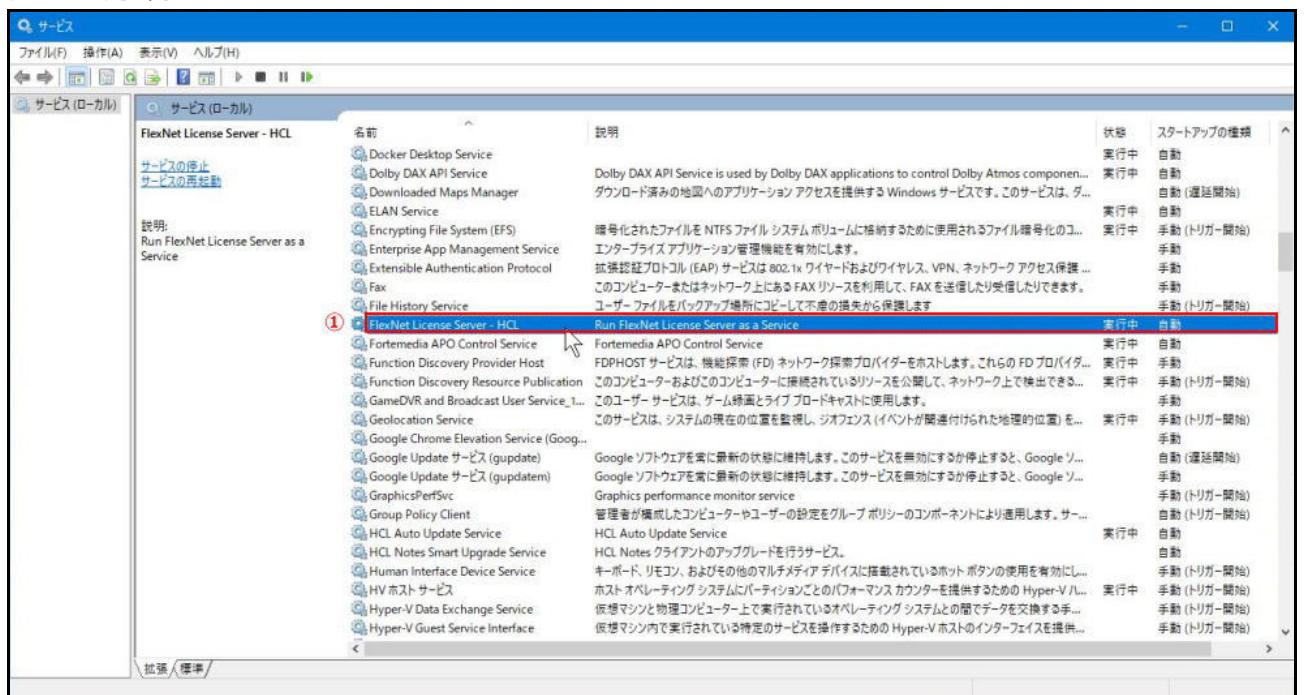


```
C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\Flexnetls\HCL\logs type flexnetls.log ①
09:21:48.852 INFO Starting FlexNet License Server 2018.02 (build 222955)
09:21:48.888 INFO Copyright (C) 2018-2018 Flexera Software LLC.
09:21:48.888 INFO All Rights Reserved.
09:21:48.888 INFO Running as a service
[ C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\Flexnetls\HCL\logs ] ②
```

- ① **C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\Flexnetls\HCL\logs** に移動する。
- ② **type flexnetls.log** と入力する。
ログ内容が正常であることを確認する。

3. サービス一覧

サービス一覧を開く。



①一覧から、「FlexNet License Server - HCL」が実行中であることを確認する。

4. ブラウザーからヘルスチェックを行う。



①ブラウザを立ち上げ、<https://mick5v-p52:443/api/1.0/health> をロードする。

- mick5v-p52** は、ホスト名である。
- 443** は、ポートである。

②**connectionCheck** が success であることを確認する。

4. HCL Common Local License Server V2.0 の設定

4.1. 設定準備

1. Enterprise フォルダへ移動

```

C:\ 管理者: コマンドプロンプト

[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\server ] cd ../enterprise ①
[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\enterprise ] ②
  
```

① **server** フォルダで、**cd ../enterprise** と入力する。

② **enterprise** サブフォルダに移動したことを確認する。

2. ローカルホスト ID の取得

```

C:\ 管理者: コマンドプロンプト

[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\enterprise ] flexnetlsadmin.bat -server https://mick5v-p52:443/api/1.0/instances/~ -authorize
admin HCLDefault1@ -HostID
{
  "selected": {
    "hostidType": "ETHERNET",
    "hostidValue": "E86A6473DEF4" ②
  },
  "hostids": [
    {
      "hostidType": "ETHERNET",
      "hostidValue": "E86A6473DEF4"
    },
    {
      "hostidType": "ETHERNET",
      "hostidValue": "645D86DADB22"
    }
  ]
}
[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\enterprise ]
  
```

① コマンドプロンプトで、**flexnetlsadmin.bat -server https://mick5v-p52:443/api/1.0/instances/~ -authorize admin HCLDefault1@ -HostID** と入力する。

a. **mick5v-p52** は、ローカル・ライセンス・サーバーの**ホスト名**である。

b. **443** は、**ポート番号**である。

② タイプが ETHERNET (物理) の value (**ホスト ID**) を覚えておく。

※注意事項: ネットワークは必ず物理 ETHERNET を選択する。Wi-Fi はその特性上ライセンスサーバーには利用出来ない。

3. ライセンスの詳細

```

C:\ 管理者: コマンドプロンプト

[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\enterprise ] flexnetlsadmin.bat -server https://mick5v-p52:443/api/1.0/instances/~ -authorize
admin HCLDefault1@ -licenses -verbose
=====
Feature Name      Version Count      Used/Available  Expiration      Start Date
=====
Total of all feature counts : 0
Number of installed features : 0
Number of "uncounted" features : 0
Total of used feature counts : 0
[ D:\DISK\HCL\HCL_CLLS\HCL_CLLS_2.0_Windows_x64_Offline\enterprise ]
  
```

① コマンドプロンプトで、**flexnetlsadmin.bat -server https://mick5v-p52:443/api/1.0/instances/~ -authorize admin HCLDefault1@ -licenses -verbose** と入力する。

a. **mick5v-p52** は、ローカル・ライセンス・サーバーの**ホスト名**である。

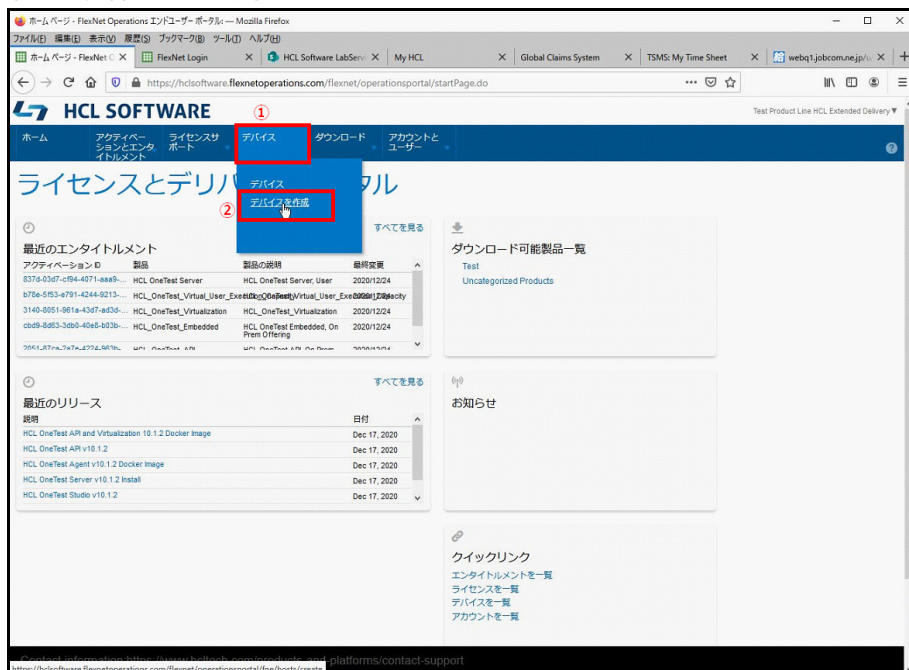
b. **443** は、**ポート番号**である。

② ライセンスの詳細が表示される。この時点では、何も表示されない。

4.2. ポータルサイトでの作業

1. デバイスの作成

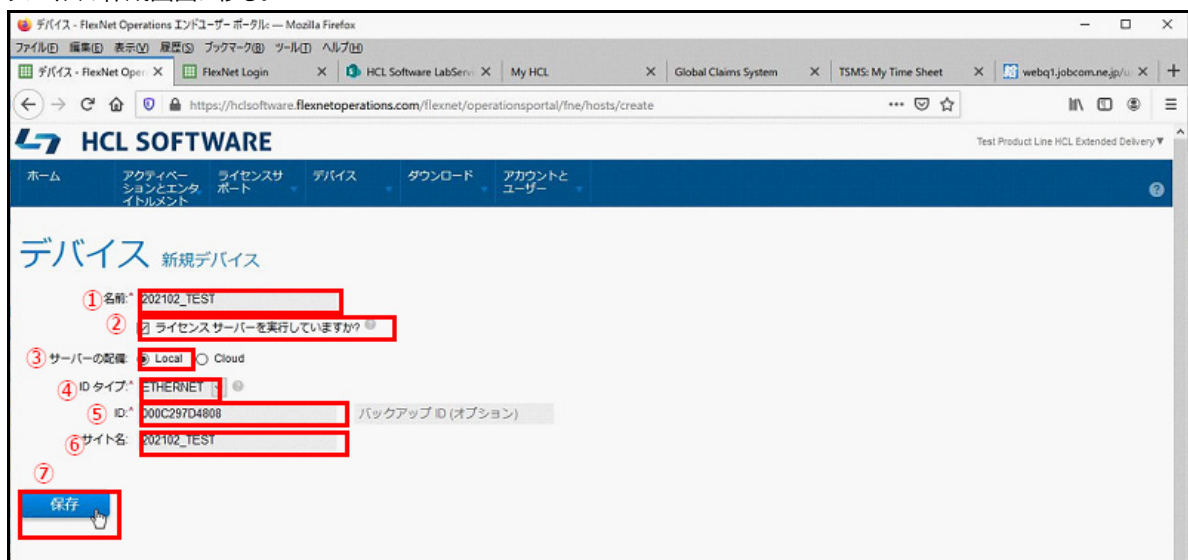
ポータルサイトにアクセスする。



- ①メニューから、「デバイス」をクリックする。
- ②プルダウンメニューから、「デバイスを作成」をクリックする。

2. 新規デバイス

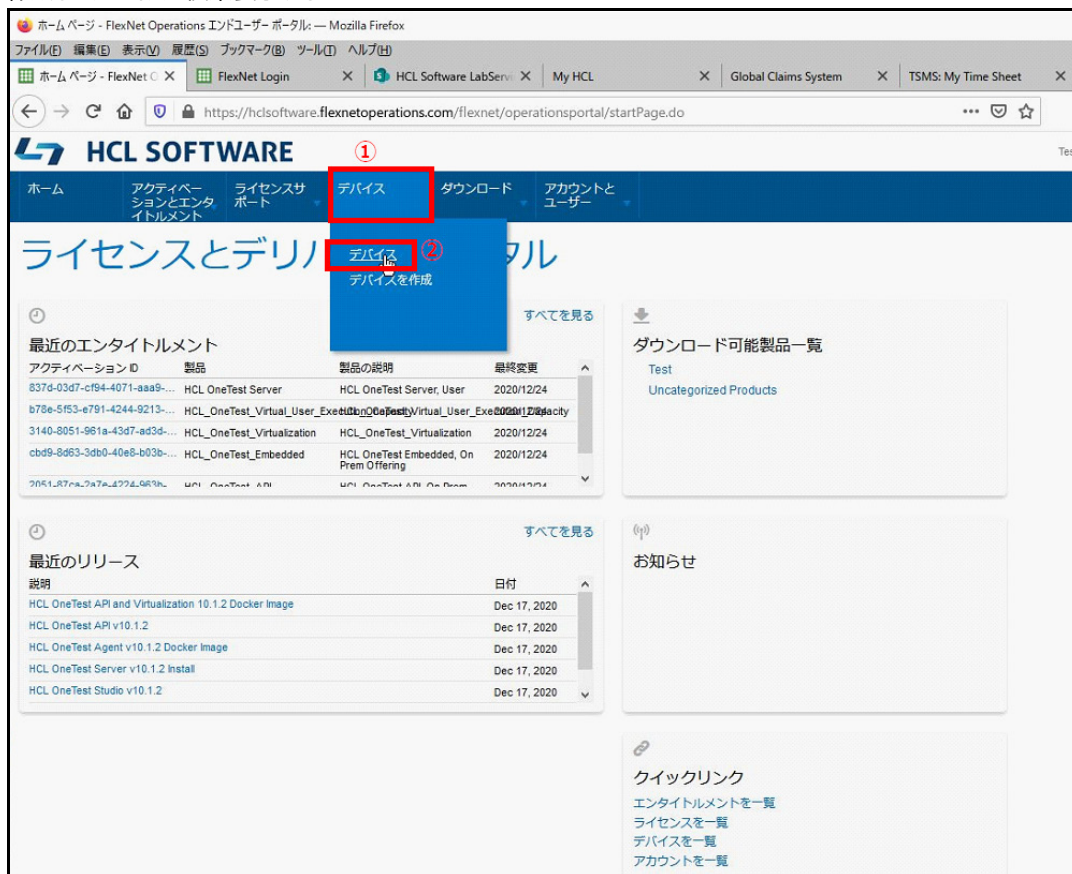
デバイスの作成画面に移る。



- ①名前に任意の名前を入力する。
- ② ☒ ライセンスサーバーを実行していますか? を✓する。
- ③ Local のラジオボタンを選択する。
- ④ID タイプから、ETHERNET を選択する。
- ⑤ID に、ローカルホスト ID で取得した値を入力する。 例. E86A6473CEF4
- ⑥サイト名を入力する (任意)。
- ⑦【保存】ボタンをクリックする。

3. デバイス表示

作成したデバイスを検索表示する。



①メニューから、「デバイス」をクリックする。

②プルダウン・メニューから、「デバイス」をクリックする。

4. デバイスの一覧

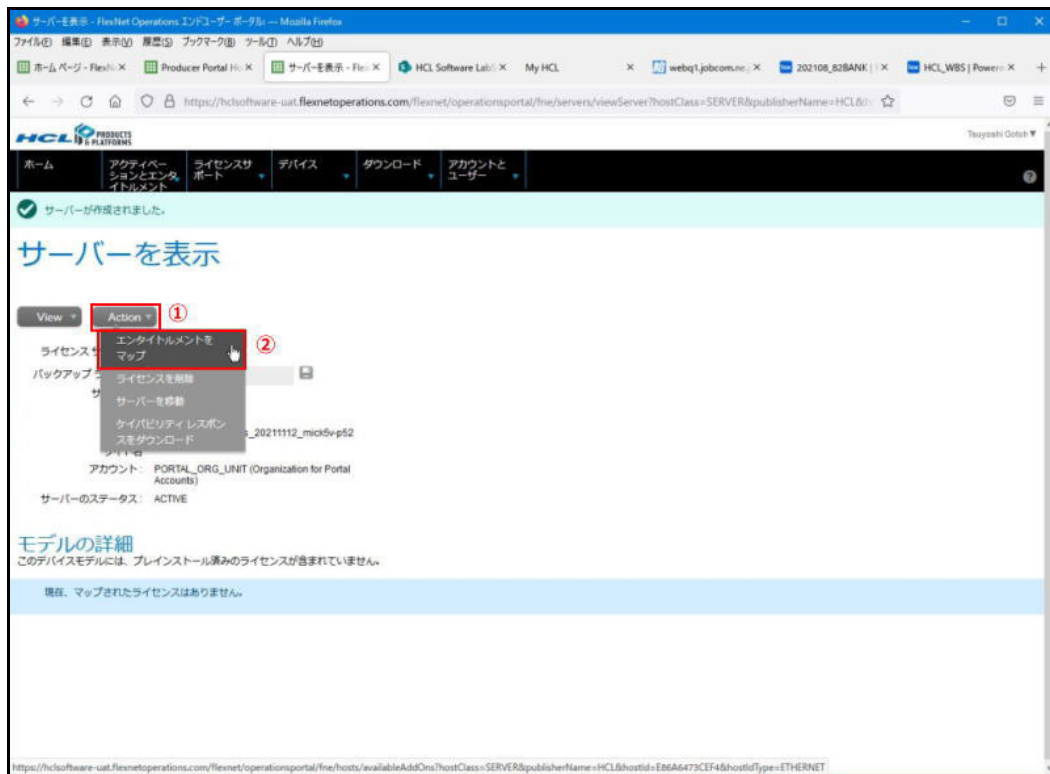
デバイスの一覧が表示される。



①先ほど作成したデバイスをクリックする。

5. デバイスの詳細

デバイスの詳細が表示される。



①【Action】のボタンをクリックする。

②プルダウン・メニューから、「エンタイトルメントをマップ」をクリックする。

6. ライセンスの一覧

デバイスにマップされたライセンスの一覧が表示される。

追加する数量	使用可能な数量	合計数量	製品
	1000	1000	HCL Z Asset Optimizer
	1000	1000	HCL AppScan Interactive Application Security Testing (IAST)
	1000	1000	HCL AppScan Enterprise Dynamic Analysis Users Per Authorized User Single Install
	1	1	HCL Accelerate
3	94990	100000	HCL_OneTest_Studio

①

② 保存

①追加(新規取得)するライセンスの必要数の欄に**必要な数**を入力する。

この例では、有効な数 94990 つのうち、3 つを追加(新規取得)することを指定している。

②画面を最後までスクロールすると、【保存】ボタンがあるので、それをクリックする。

7. デバイスの詳細

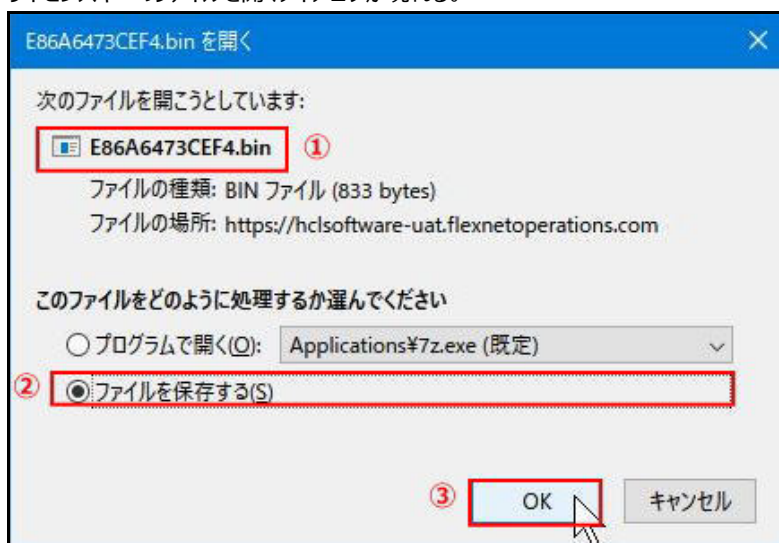
デバイスの詳細画面に戻ると、マップされたライセンスの一覧が表示される。



- ① マップされた**ライセンス**の一覧を確認する。
- ② **【Action】**のボタンをクリックする。
- ③ プルダウンから、「**キーバインドライセンスをダウンロード**」をクリックする。

8. ライセンスキーのダウンロード

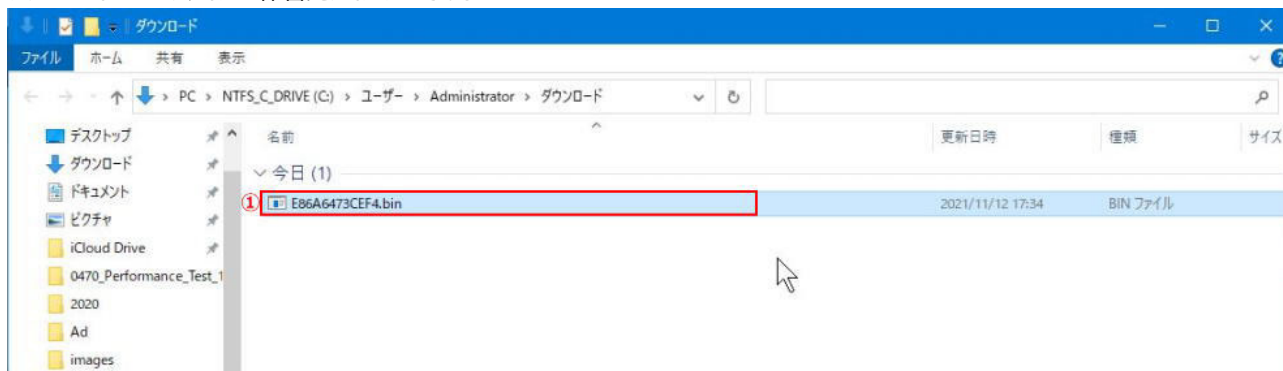
ライセンスキーのファイルを開くダイアログが現れる。



- ① ファイル名が**ホスト ID.bin**であることを確認する。この例では、**E86A6473CEF4.bin** である。
- ② 「**ファイルを保存する**」ラジオボタンをクリックする。
- ③ **【OK】**ボタンをクリックする。

9. ダウンロード結果

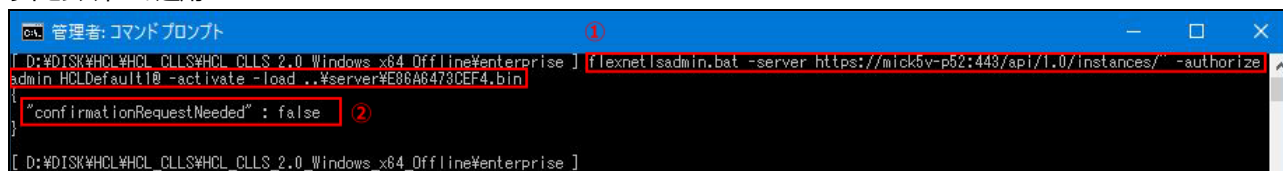
ダウンロードされたファイルの保管先フォルダーである。



①ライセンスキーファイルが保管されていることを確認する。

4.3. ライセンスキーの適用

1. ライセンスキーの適用

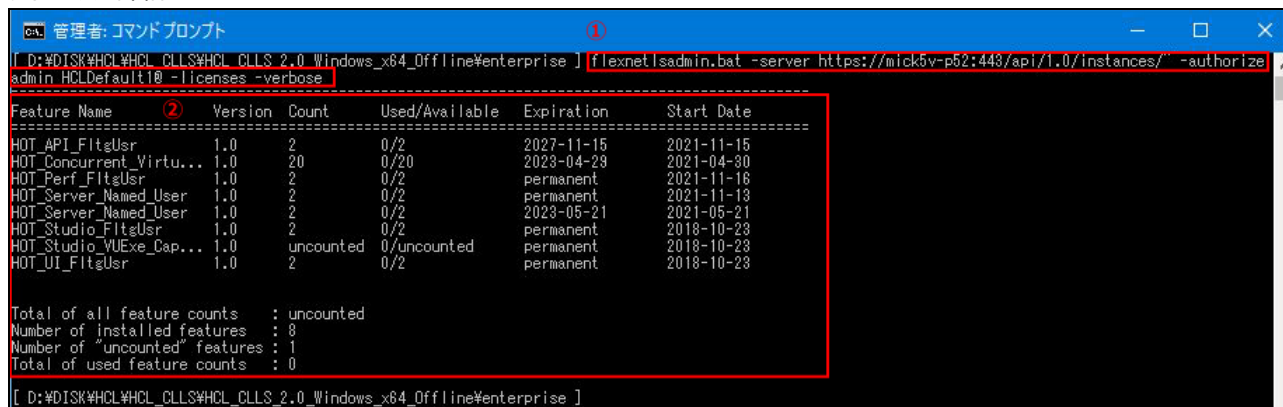


① **flexnetlsadmin.bat -server https://mick5v-p52:443/api/1.0/instances/~ -authorize admin HCLDefault1@ -activate -load ..¥server¥E86A6473CEF4.bin** と入力する。

- mick5v-p52** は、ローカル・ライセンス・サーバーの**ホスト名**である。
- 443** は、**ポート番号**である。
- E86A6473CEF4.bin** は、**ライセンスキー・ファイル名**である。

② **"confirmationRequestNeeded" : false** というメッセージが表示されれば成功である。

2. ライセンスの詳細



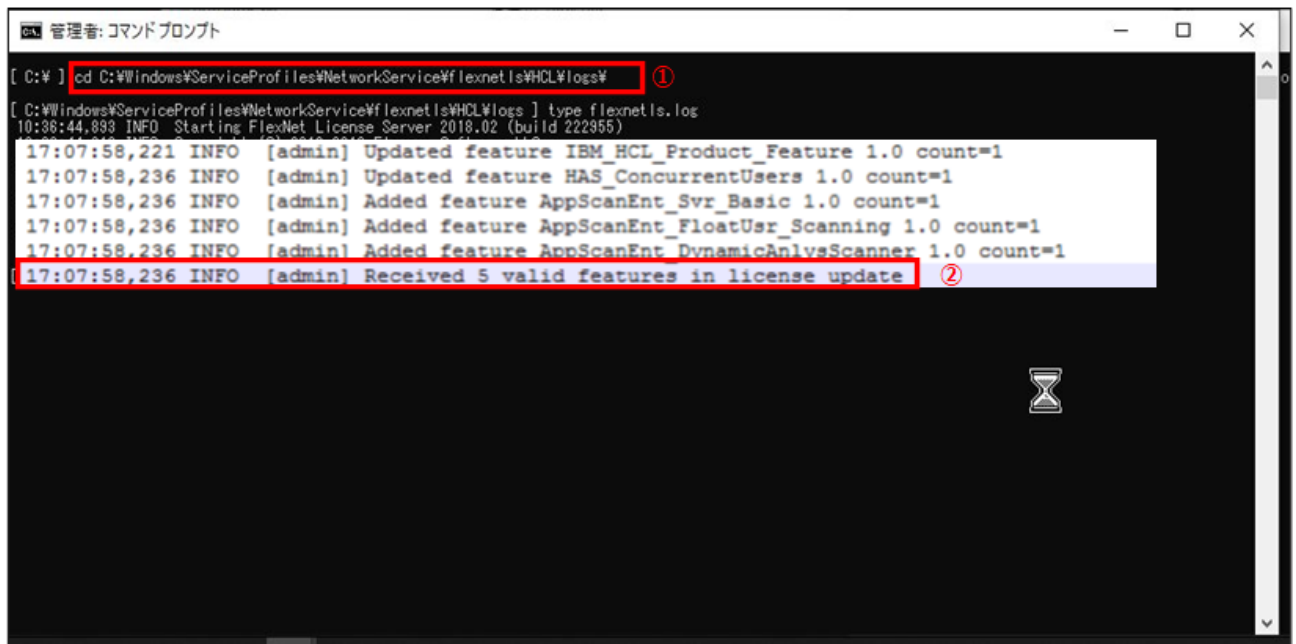
① コマンドプロンプトで、**flexnetlsadmin.bat -server https://mick5v-p52:443/api/1.0/instances/~ -authorize admin HCLDefault1@ -licenses -verbose** と入力する。

- mick5v-p52** は、ローカル・ライセンス・サーバーの**ホスト名**である。
- 443** は、**ポート番号**である。

② ライセンスの詳細が一覧表示される。この例では、8 種類のフィーチャーがインストールされていることが判る。

3. ログの確認

管理者権限でコマンドプロンプトを開く。



```
管理者: コマンドプロンプト
[ C:\> ] cd C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\flexnetls\HCL\logs
[ C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\flexnetls\HCL\logs ] type flexnetls.log
10:38:44,893 INFO Starting FlexNet License Server 2018.02 (build 222955)
17:07:58,221 INFO [admin] Updated feature IBM_HCL_Product_Feature 1.0 count=1
17:07:58,236 INFO [admin] Updated feature HAS_ConcurrentUsers 1.0 count=1
17:07:58,236 INFO [admin] Added feature AppScanEnt_Svr_Basic 1.0 count=1
17:07:58,236 INFO [admin] Added feature AppScanEnt_FloatUsr_Scanning 1.0 count=1
17:07:58,236 INFO [admin] Added feature AppScanEnt_DynamicAnlyvsScanner 1.0 count=1
17:07:58,236 INFO [admin] Received 5 valid features in license update
```

①ディレクトリを以下のローカル・ライセンス・サーバーのサービスのログフォルダーに移動する。

C:\Windows\ServiceProfiles\NetworkService\flexnetls\producer_name\logs

②ライセンスが正常に適用されていることを確認する。